

三見小中だより

小中一貫教育校
萩市立三見小中学校
平成29年11月30日発行
文責：校長 宮木 剛

複式授業研究会

11月14日、本校にて「萩市複式指導研修会」が行われました。授業公開者は、本校小学部5・6年担任の林教諭で、算数の授業を行いました。少子高齢化が加速度的に進んでいる萩市では、複式学級を抱える学校がほとんどです。複式の授業は、ご覧になった方はよくわかりだと思いますが、一人の教員で2つの学年を同時に教えていく、というものです。複式の授業がうまくいくと、子どもたちが授業を進め、自ら学習に取り組んでいく姿が見られるようになります。そのためにはどうすればいいか、複式の良さを生かすためにはどうすればよいかを研究する会議が、本校を会場にして行われたのです。

複式の授業を初めて見た人の感想に、「先生がとても忙しそうだ」「違う内容を頭に入れて一人で教えるなんて、自分にはできそうにない」「同じ教室で違う学習をするのは、隣の学年が気になって集中できないのではないかな」などがあります。ご心配はいりません。確かに、複式の授業は、準備が大変です。授業中も教師は「忙しい」です。でも、慣れてくると、子どもたちは集中して学習に取り組むようになります。まあ、集中させるのも教師のテクニックではありますが・・・。

子どもと関わるコツ その4

なぜ躰が必要なのか？ 自制心とやり抜く力

前号で、学習は子どもにどのような力を身につけられるのかについて考えてみました。そこで、今回は、「生きる力」と言われている自分をコントロールする力（やり抜く力、やる気、粘り強さ、意思力の強さ）を鍛えるための方法について考えてみましょう。

さて、学力には年齢的な問題があると言われていますが、自分をコントロールする力は、成人後も改善の可能性は大いにあるそうです。

では、この「自制心」「やり抜く力」について考えてみます。自制心を鍛えるためには、何度も繰り返し、継続的に行う必要があるそうです。皆さんは、父親に背筋を伸ばす等、姿勢について指導された経験はありませんか。ここでは、姿勢の良さとともに「自制する力」を育てていたのです。また、詳細に自分でスケジュールを立て成果を把握、自己管理することも自制心を育てることにつながるそうです。

次に「やり抜く力」について考えてみます。最後までやり遂げることが難しいことを多くの人が知っています。一方、私たちは周囲の人が自分の持てる力を信じてくれたことで、努力し続けられた経験はないでしょうか。子どもにとっても大人が自分の力や取り組む頑張りを見守っていることで、諦めずやり抜けるのです。見守り、応援し続けることがこの力を育むのです。

このように考えると、これらの力の育成は、家庭での躰と関係がありそうです。この2つの力の育成も躰も、大人が子どもの力を信じて継続的に、かつ我慢強く声をかけ続ける必要があるのです。子どもを育てることは、手間がかかり、悩むことが多いですね。

来場者の多かった文化祭



10月29日に開催した文化祭には、保護者の方々をはじめ、多くの地域の方々のご来場を得て、子どもたちも張り切って演技・表現をすることができました。また、三見写真展に出品いただいた方、展示物にご協力いただいた方、出演して下さった米山社中の皆さん、多くの方々のご協力があつて本校の文化祭は成り立っています。本当にありがとうございました。

12月の行事予定

- 1日(金) 新1年体験入学
中学部期末テスト①
- 4日(月) 中学部期末テスト②
- 5日(火) 三見地区青少年健全育成会議
- 7日(木) 第4回学校運営協議会
- 8日(金) 研修職員会議
(授業は5校時まで)
- 12日(火) 駅伝大会 ふぐ鍋給食
タマネギ植え
- 15日(金) 地域ふれあい給食
- 16日(土) ロードレース大会
- 21日(木) 給食終了
学期末個人懇談
すこやか相談
- 22日(金) 終業式
- 28日(木) 公務納め

萩・阿武中学校音楽



萩阿武中学校音楽会に、小学部5・6年生と中学生全員が参加しました。指導者の先生から、良い評価をいただきました。



サツマイモの収穫です。大きい芋がたくさんとれました。



中学生対象の親子料理教室では、漁協婦人部の方にお世話になっています。アジ、イカを提供していただきました。



今回の地域ふれあい給食に参加していただいた方は、JA女性部の、横川壽美子さん、岡本八重子さん、奥富純子さん、阿武よしゑさん、西村やす子さんです。